

平成 29 年度 第 1 回 庄内町総合教育会議

日時／平成 29 年 10 月 26 日（木）午後 1 時 30 分

場所／庄内町役場西庁舎 2 階第二会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 教育行政にかかる課題について

(2) その他

4 閉 会

平成 29 年度 第 1 回 庄内町総合教育会議

●構成員

職 名	氏 名
庄内町長	原 田 眞 樹
庄内町教育長	菅 原 正 志
庄内町教育委員会委員	今 野 悦 次
庄内町教育委員会委員	池 田 智 栄
庄内町教育委員会委員	梅 木 均
庄内町教育委員会委員	太 田 ひろみ

●事務局

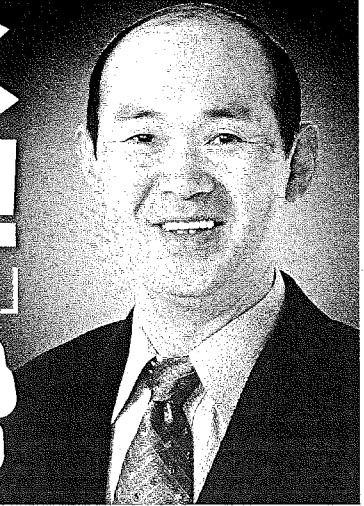
職 名	氏 名
教育課長	海 藤 誠
社会教育課長	上 野 英 一
教育課主査兼教育総務係長	海 藤 博
教育課教育総務係	佐 藤 博 子



日本一住みやすく 住み続けたい町!

「合併の総仕上げ!」走り出す「未来予想図!」

はらだまき



討議資料

「合併の総仕上げ!」町の「未来予想図!」を示します!

合併の原点は「日本一住みやすく住み続けたい町!」

- 国の有利な合併支援のある残り3年は、平常時の3倍の事業に挑戦できる戦後最大のチャンスの時です!
- 町の勢いやその大きな流れを最大限活かし、少子、超高齢、人口減少社会に挑戦していきます!
- 町は、地元最大の、未来に向けた投資が出来る企業です。その果実を住民の福祉に活用します。

国の有利な支援は?

- ①「合併特例債」(約66.5%国負担)
- ②「過疎対策債」(約70%国負担)
- ③「地方創生事業」
国の認定を受けて50%の補助金。

(注)国の合併支援は、当初平成27年度までだった。リーマンショックや東日本大震災等の影響から32年度まで5年間延長された。

今後3年間余で
予定される主な事業は?

**「新しい町の
中核作り」
「新たな価値の
創造へ!」**

庄内町の財政は健全です!

本町の平成27年度決算では、国の財政指数は全て健全です。町の借入総額は国からの支援を差し引くと約43億円となります。また、町民の預貯金に当たる町の基金は約49億円に上り、借入よりも多い状況です。ただし、常に将来に備え、「入るを図りて、出るを制する」精神で進めています。

「町役場本庁舎」 の建設整備

まちづくりのエンジン。
防災庁舎。

「西庁舎」改築

冬場でも遊べる、子供達の
「屋内遊技場」と「子育て支
援センター」。

「立谷沢旧克雪 センター及び 立谷沢出張所の改築」

「平成の名水100選」立谷
沢川を活かす。人が集い
(カフェ)、仕事を創り(工
房)、買い物(ミニ・コンビ
ニ)も出来る出張所。

「立川庁舎」 リニューアル

若者が住みたくな
る立川地域のシン
ボル施設へ。

「図書館」整備

高齢者も利用し易い
バリアフリーで現代
風憩える図書館へ。

「八幡スポーツ 公園の充実」

他所から人を呼ぶ
「スポーツ交流人
口」拡大の強化と
「健康増進」を中核
に進化させる。

「清川歴史の里」 構想

最上川舟運で栄えた
清川地区の「核」づくり。

「子育て 応援住宅」

児童数の少ない地区
に重点配備。「子育て
世代向けの町営住
宅」整備。

「新住宅団地」 構想

現在、まとまった住宅
団地が全て完売。移
住希望に合わせ官・民
両面での新住宅団地
造成で移住を促進。

庄内全体が、この4年で大きく発展!

- 1.合併メリットがあるのは県内で鶴岡・酒田・庄内町だけ。
- 2.「日沿道」の事業化決定と「余目・酒田道路」の平成29年度中完成確定。
- 3.酒田港のコンテナ貨物の扱い量増加日本一。豪華客船寄港。
- 4.観光立県「山形」の中心は庄内!
日本遺産の「出羽三山」、「北前船」、羽黒松ヶ岡「侍シルク」、「鳥海山・月山ジオパーク構想」。

これからの本町の進む方向は?

人口の増加に向けて、高速道路の進展に合わせ、町内全域を移住・定住地域に拡大!

**住みいるタウン・
イン・庄内**

合併して12年が経過し、浮き彫りになってきた課題、「地域の人口格差」や「各地区の活性化」等を地域・地区の「核」つくりで解決します！



国の「地方創生」と町の「第2次総合計画」を連動させて効果を高める！

はらだ まき(原田眞樹)

昭和28年1月19日生まれ 山羊座
最終学歴 昭和51年3月 早稲田大学 教育学部 卒

重点1

産業活力日本一のまち

雇用の確保は産業振興が基本

高速交通網の整備は、企業進出と通勤圏の広域化が進みます。庄内地方全体での企業誘致等、雇用の確保を図ります！

※平成28年度、山形県への進出企業24社のうち12件が庄内へ進出。

▶本町や本町への勤務先が庄内、最上、にかほ市等へ拡がります。
⇒移住・定住を増やし、人口増と地域の人口格差解消へ。

※町独自の起業家支援や雇用の創出を行います。

※町の第三セクター「イグゼあまるめ」は、「クラッセの産直、レストラン」「町湯」「プール事業」など、幅広く町の仕事を手払い、雇用で約50名、売り上げが5億円を超えた黒字企業に成長しています。今後もきめ細かく事業展開を支援していきます。

※(酒田地区3月有効求人倍率1.72倍で最高水準。県内は1.44倍)

農業

「米」プラス「花」と「野菜」など多様な農業経営の支援で後継者の育成と確保を図る。

▶「地域おこし協力隊」等で、新規農業者の確保を図ります。

▶「種苗センター」活用を花+野菜へ拡大。学校給食センター供給と野菜のブランド化を図る。

※「第11回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」は毎年、全国から400を超える出品があり、お米農家の方々の誇りをかけた、注目されるコンテストに成長。

※「ふるさと納税」⇒新しい町の収入源。平成28年度6億円の内4.5億円余は「お米」人気！今年は全体で10億円を目指す。

▶道の駅「しょうない」⇒平成30年度、売り上げ2億円をめざし、「新学校給食共同調理場」との協働で地域の農業所得の向上や生きがいづくりに活用します。

商・工業 これまでの強みを活かす。

※本町から全国に広がった「持家住宅祝金制度」の拡充！事業規模は毎年概ね7億円に達している。

▶「持家住宅祝金制度」、「若者定住支援制度」、「空家登録データバンク制度」、「若者支援住宅建設」等の経済効果大⇒既存事業の強化と共に、新たに「子育て支援住宅」建設や民間による「新住宅団地整備」等を計画。

▶「たべぶらパスポート」で人を呼び「一店逸品」や「プレミアム商品券」で消費を拡大させる。

※商工会青年部は、県内トップクラスの会員数で元気印！

観光

裾野の広い産業。町の消費拡大に繋げる！

▶「月山山頂の町」立川地域の自然を生かす取り組みと、「おいしいお米のルーツ『亀の尾』の郷」余目地域の交通の要衝を活かした地域の魅力拡大で、交流人口平成29年度100万人を目指す。

※平成28年度までの3年間で観光入込数3倍増81万人達成！

重点2

子育て・教育日本一のまち

子供達や若者の希望に応える町

※町の「若者定住促進事業」により平成21年度から29年5月末まで129世帯数、人口453人対応！

▶「子育て応援日本一」に向けて、冬期や雨の日に遊べる場の確保に「新子育て支援センター」の整備を計画。

▶「ランドセル」や中学入学時の「かばん」の贈呈など、子供達が自立するまで、節目ごとに親子を全面支援。

▶結婚支援では、結婚仲人の充実、広域での出会いの場の創出と町の相談窓口の一元化。

※昨年までの商工会青年部への支援事業「街コン」等「出会いの場づくり」で3組以上が結婚へ…！

▶「南三陸町への復興支援」は、職員派遣や町民の交流に交通費の補助など、子供たちの教育の視点と町民同志の心の交流を中心に続けます。

▶子供たちの海外研修等は、テロ等頻発する海外事情を鑑み、安心・安全を最優先に支援します。

▶サッカー交流はモンテディオ山形との連携を強化します。

※町の平成28年度成人式⇒成人の町内在住率が72%と過去10年で最高を記録。毎年伸びる傾向に。

重点3

健康長寿日本一のまち

元気で長寿日本一！
病気予防に徹します！

▶がん検診の無料。肺炎球菌ワクチン接種助成5千円。免許証返納者へタクシー券毎年元気で2万円分。町営バスの無料化。8月から、市街地巡回バス午前・午後各4便の新設。無料の温泉券5枚。健康マイレージ各種事業。

※健康の秘訣はこれ！「生きがいを持つ」事と、「体を動かし」、「塩分控えめ」、「健康診断を定期的にする」。

重点4

安心・安全日本一のまち

安心・安全は全てに優先

▶災害や犯罪が少なく、医療・介護の充実と、上・下水道ガス等、公共料金の負担軽減をさらに図る。

※公平・公正の信頼の絆は情報公開から。

※本町は医療・介護施設が充実。救急搬送も対応済み。公共料金等も上げない努力を最優先。

重点5

環境共生日本一のまち

自然の豊かさは都会人に魅力

▶「風力発電発祥の町」、環境に優しく、自然豊かな町は都会人に人気。

※町営や民間の風力発電事業により、年1億円程度の収入増を見込む。

